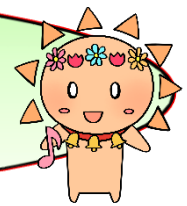




めざせ太陽の子



e-mail アドレス younan-es@tym.ed.jp

HP アドレス <http://www.younan-e.tym.ed.jp/>

朝、登校してくると、保健室前に掲示してある「健康あみだくじ」で今日の運勢を占っている児童の様子が見られます。「やったあ 今日にはスペシャル大大大吉だ!」「『いい事しか起こらない』だって」初めは、あみだくじのやり方を十分に理解していない様子の子でしたが、今では自分が選んだ番号からスタートして、目で線を追いながら正確にゴールにたどり着けるようになりました。また、ゴールに貼ってある色画用紙をめくると、そこにメッセージが書かれています。それもすらすらと上手に読めるようになりました。ほんのわずかなことですが、子供たちの成長の早さに驚かされます。そして子供のやってみたい、読みたいという気持ちが自然と湧くような環境を整えることの大切さを改めて感じました。



「子供は環境から学ぶ」ということを肝に銘じ、「主体的に学ぶ子供」を目指して、今後もよりよい学習環境、言語環境づくりに取り組んでいきたいと思っております。

学校給食週間

1月22日(月)～29日(月)

給食週間の特別献立のテーマは、「食べてみよう! かみいちすごい人給食 パート2」です。1日目は、上市町女川出身で、第63次南極地域観測隊副隊長兼越冬隊長を務められた、法政大学社会学部 教授 澤柿 教伸さんにちなんだメニューでした。水分が少なく揺れる船の上でも食べやすい「南極ドライカレー」、ツナを残さず使うため、調味料をツナ缶を使って入れ、白菜の水分だけで煮た「白菜とツナのさっと煮」など、水や食料が貴重な南極で、食品ロスを減らすための工夫が詰まったメニューを味わっていただきました。



南極について初めて知る子供もいるため、事前に、平成6年に澤柿先生から寄贈され学校内に展示されている「南極の石」を見たり、「南極のまめ知識クイズ」に取り組んだりして、南極や観測隊の仕事について知る活動をしました。給食をいただきながら、「南極に行ってみよう」と話す子供もいて、興味・関心が高まったようです。



また、いつもおいしい給食を作ってくださいという調理員の吉田さんと渡辺さんに感謝の気持ちを込めて手紙を書きました。6年生の給食委員は、「卒業までの残り少ない日々、給食を一口一口味わって食べたいです」という言葉を添えて、手紙を手渡していました。



裏面もご覧ください



23 日からの大雪で雪不足の心配がなくなり、全校児童 50 名全員が元気に参加して、スキー教室を実施することができました。スキー場では雪が少し降ってはいましたが、風もなく視界も開けていて、スキーをするにはよいコンディションでした。

今年も 8 班に分かれ、スキー学校のインストラクターさんの指導を受けました。1 年生はほとんどの子供が初めてスキーをしたのですが、学校でスキーの着脱や雪の上を歩く練習をしていたので、あまり怖がることなく落ち着いて練習していました。



初心や初級の班の子供たちも、何度もリフトに乗り、スキーをハの字の形にして、斜面を上手に滑り降りてきました。「みんなで上から滑ってこられて楽しかった、また来たい」という感想が聞かれました。リフトに乗ることが怖くてスキーをすることに消極的だった子供も、インストラクターさんの優しい指導でどんどん自信を付け、午後からは笑顔で滑ったり、何度も挑戦したりしている姿が見られました。「できた」という喜びや楽しさをたくさん味わうことができた一日でした。

体育館の点検中

能登半島地震の影響で、3 学期が始まってからずっと体育館の使用を停止しています。現在、足場を組んで業者による点検作業が行われ、この機会に切れていた電灯の交換もしていただく予定です。使用を予定しておられた方々には、ご迷惑をおかけしていますが、安全のため、今しばらくお待ちください。

この 1 か月体育館が使えない状態が続いているため、学校では苦肉の策として体育科の授業やカリヨンタイムの運動をランチルームで行っています。ただ、スペースが限られているため、マットや跳び箱、縄跳び運動が中心です。

早く広いところで、思いっきり走り回りたいと思う子供がいる一方で、冬の体育館の寒さの厳しさから、暖房が入っているランチルームで活動できるのはうれしいと思っている子供もいるようです。

早く安全が確認され、体育館で十分に体を動かすことができることを待ち望んでいます。

体育館の点検の様子



ランチルームでの運動の様子

